2006 年度

科目名 日本語日本文学特殊講義ⅢB	対象学科・学年 文学部日文3 回生	担当者 高橋 圭一
授業テーマ 近世小説の一ジャンルである「実録体小説」の研究。		
授業の概要と目標 実録体小説、略して「実録」についての講義です。実録とは「事実の記録風の小説」の意で、多くは江戸時代に実際に起こった事件を題材とし、いかにもこれが真実であると銘打たれているものの、浮世草子や読本同様全くの創作とみなすべき作品群です。予定よりかなり遅れていますが、いずれ『大坂城の男たち』という本（岩波書店刊）を出しますので、大坂の陣関係の実録を今年も専ら取り上げる予定です。		
評価方法 講義の終わりにレポートを提出してもらいます。出席も重視します。		
テキスト 使用しません。プリントを配布します。下記の著書、およびそれ以降に書いた拙稿を主に使います。	著者	出版社
参考書 『実録研究一筋を通す文学一』（購入の必要はありません）	著者 高橋圭一	出版社 清文堂
授業スケジュール・内容 日本語日本文学特殊講義ⅢAの続き。 1、各論その三「怪しい」軍師真田幸村。 2、 続き。抜け穴と短銃。 3、 続き。父昌幸のこと兄信之のこと、など。 4、 続き。機略縦横の軍師の誕生。 5、大坂の陣物の実録中、最大長編『泰平真撰 難波秘録 本朝盛衰記』について。その概略。 6、 続き。諸本のこと。成立論。講談との関係など。 7、 続き。「附録」の琉球攻めについて。『島津琉球軍精記』との関係など。大坂の陣は終わり、その後日譚になります。 8、『薩琉軍談』について。脇道にそれますが、しばらく付き合ってください。 9、本筋に戻ります。各論その四「苦悩の忠臣」片桐且元。 10、 続き。「桐一葉」の片桐且元。片桐且元と大筒。 11、 続き。「大坂方のスカウト」片桐且元。 12、各論その五「橙武者」薄田隼人と「助太刀屋」塙団右衛門。 13、 続き。薄田隼人の失態と雪冤。『本朝盛衰記』に描かれた壮烈な最期。 14、 続き。塙団右衛門の実像。 15、 続き。豪傑塙の助太刀。「天下茶屋の敵討ち」など。『本朝盛衰記』における勇壮な最期。 私は近世文学を専門としますので、戦国から近世初頭の戦を扱った作品のみを取り上げます。中世の軍記については、どなたかゲストをお迎えして講義をお願いしたいと考えています。		